SkeedSync 導入事例

SKEED

バックアップ 様　上勝開拓団 様

距離の制約を取り払い、映像クリエイターのワークスタイルを革新するSkeedSync

映像業界では4K、8Kといった高精細動画が主流になり、撮影後の編集を担うポストプロダクションが取り扱うファイル容量も増大の一途を辿る。他方、制作期間の短縮と効率化への要求は止むことなく、クリエイターは常に高いストレスに晒されている。

今後の業界発展と優れた人材を守り育てる上で、必然的に求められる働き方改革。高速ファイルレプリケーションソフト「SkeedSync」は、その実現を妨げる距離の制約を解放した。

課題

●映画作品の映像編集フローをバックアップ社（東京都品川区）と上勝開拓団（徳島県上勝町）の離れた拠点間で連携したいが、容量が大き過ぎて映像ファイルの受け渡しや共有が困難

・既存のファイル転送サービスを利用していたがアップロード時にエラーが頻発し転送も不安定。一定サイズ以上のファイルは利用不可

・編集後のファイルは東京にメディアごと持参するなど物理搬送

検討プロセス

●同じ徳島県でサテライトオフィスを構えていたＳｋｅｅｄを偶然知り、編集ファイル転送の課題を相談したところ、高速ファイルレプリケーションソフト「SkeedSync」を推奨される

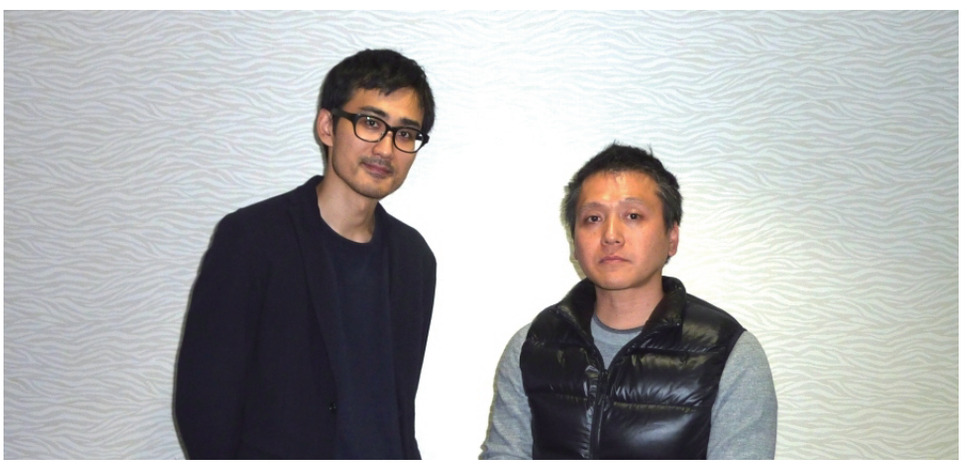
●実環境でテストしたところ、最大80Mbpsの転送速度を記録するなど安定したパフォーマンスを確認し、導入を決定

導入効果

●首都圏内でやり取りする際は物理搬送していたが、その時よりも素早く編集ファイルを上勝開拓団とやり取り可能になった

●大型映画作品など大容量化する映像ファイルの編集では困難だった地方との分業が可能となりポスプロ分野での新しいワークスタイルを後押しする

●Ｓｋｅｅｄプロダクトを活用することで、遠方ロケ地からのマスターデータの受け渡しでも高速化を見込む



■１つの映画作品に2、3ヶ月籠りきりになる映像編集者を魅了した徳島上勝町の人と自然

株式会社バックアップ 代表取締役豊里泰宏氏は業界歴１６年を数えるポストプロダクションのプロデューサー。これまで数々のヒット作品に携わってきたが、彼の仕事にとって欠かせないのが信頼のおける映像編集技師である。

その貴重なブレーンの一人が、株式会社上勝開拓団の小野寺拓也氏だ。この3年間にふたりで手掛けた作品だけでも、観客動員数100万人を突破した「黒崎くんのいいなりになんてならない」や2017年春公開の話題作「兄に愛され過ぎて困ってます」など映画ファンならずとも知る著名な作品が並ぶ。

そのペアが今回、手掛けた邦画3部作「HiGH&LOW THE MOVIE」シリーズは、制作中に扱うファイル容量がこれまでになく大きい。「（同シリーズの）最終作、FINALMOVIEではロケ地の北九州から東京にあるバックアップ社まで42TBものマスターデータ（撮済みファイル）が送られました。東京での撮影分も含めると約100TBです」（豊里氏）

しかし、実際に公開される映像ファイルはせいぜい数百GB程度、つまり1％にも満たない。「その膨大なファイルから小野寺さんは編集に取り掛る」（同）ことになり、その苛酷な作業は、編集能力やセンスだけでなく気力・体力も問われる。「編集作業に入ると2、3ヶ月籠りっきりになります。ですので自分自身追い詰められて、これから先10年、20年本当に出来るんだろうか、という思いは常にありました」（小野寺氏）

転機が訪れたのは7年前。仕事上の先輩であった現上勝開拓団社長の仁木啓介氏が番組取材で訪れた徳島県上勝町に移住し、その後、仁木氏の仕事を手伝いに同地を訪れた小野寺氏も心地よい健康的な生活を体感。上勝の人と自然にすっかり魅了され、思い切って移住を決意したのだ。幸い徳島は高速インターネットの整備が地域の隅々まで進んでおり、少々の仕事には支障はない。だが、大容量ファイルを扱うような大作でこのワークスタイルを成立させることは容易ではなかった。

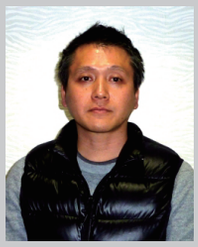
■東京-上勝町を80Mbpsで高速同期し映像編集の"距離の制約”を解消

上勝町に移住してしばらくは既存の転送サービスを利用して東京にいる豊里氏と編集ファイルをやり取りしていたが、アップロード時にファイル抜けなどエラーが起こることも多かった。「移住して

SkeedSync 導入事例

バックアップ 様　　上勝開拓団 様

BACKUP



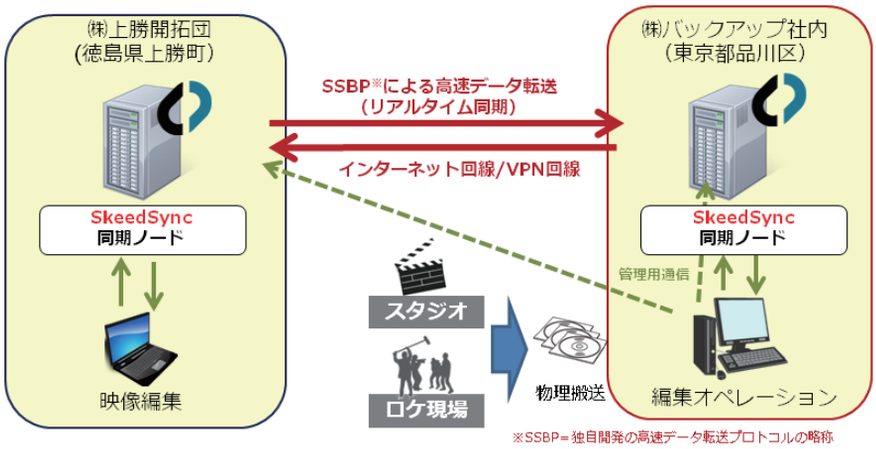
株式会社バックアップ
代表取締役　豊里泰宏氏

株式会社上勝開拓団
映像編集　小野寺 拓也氏

株式会社バックアップ
本社：東京都品川区東五反田2－14－1 IMAGICA本館B1F
設立：２０１３年２月
資本金：３０万円
従業員数：２名
業務内容：映像制作（映画、テレビ番組）

株式会社上勝開拓団
本社：徳島県勝浦郡上勝町大字福原字庵ノ谷27
設立：2015年4月
資本金：1,200万円
従業員数：4名（2017年11月現在）
業務内容：映像制作、イベント企画・運営、Bar IRORI 経営

バックアップ社と上勝開拓団とのSkeedSyncによる映像編集ファイル連携構成図



最初の作品は今回の『HiGH&LOW THE MOVIE3 FINAL MISSION』の1/100くらいの規模でしたが、それでもかなり圧縮して何度も東京から上勝町に送ってもらい、編集が纏まったところで東京に持って帰ってきて監督と一緒に編集の仕上げをするような状況でした」（小野寺氏）
そんな中、同じ徳島県の美波町でサテライトオフィスを構えるＳｋｅｅｄの存在を知り相談したところ、高速ファイルレプリケーションソフトSkeedSyncを紹介された。
「最初にデモを拝見し、実環境でも3回テストして80Mbpsを記録したのでこれならいけると感動しました」（同）
SkeedSyncの導入で編集のフローは各段に改善したという。「小野寺さんが徳島にいる間も都内にいるときと変わらず編集作業を続けられるようになりました。むしろ、都内だと専用の搬送便を使って媒体を送らないといけないので却って手間になるくらいです」（豊里氏）

■映像制作のワークフローを大きく変えるＳｋｅｅｄ高速ファイル転送ソリューション

今日の映像制作は、大容量ファイルとの闘いといっても過言ではない。才能あるクリエイターがストレスに押し潰されることなく、都市と田舎の間で自由闊達に活躍することは政府が打ち出す働き方改革にも通じるものがある。
「映像編集者が地方で活躍できないのは、扱っている素材ファイルが大き過ぎてやり取りできない事だけです。デザイナーとか他のクリエイターはすでに多くが地方に居を構えた働き方を実現しています」（小野寺氏）
また、映画づくりは今後、遠方のロケ現場と編集者の間で大容量ファイルのやり取りが増えていくことは想像に難くない。「これから関わる作品では広島県西条市を舞台に撮影して、基本編集は京都、ポスプロは全て東京でという流れで考えていますが、そのマスターデータのやり取りにもＳｋｅｅｄ製品を使いたいと考えています」（豊里氏）
映像編集のワークスタイル、さらには映像制作全般のワークフロー革新に向けて、Ｓｋｅｅｄ高速ファイル転送ソリューションの活躍の場は広がり続ける。

上勝開拓団のスタッフ（同社ホームページより）

SKEED
株式会社 Skeed
〒153-0063 東京都目黒区目黒1-6-17 Daiwa目黒スクエア5F
TEL:03-5487-1033　FAX:03-5487-1037
http://www.skeed.co.jp　E-mail:ssb@skeed.co.jp